

菅首相による「日本学術会議」会員6名の任命拒否に抗議します

(1)

すべてのサークル員のみなさん！ 菅首相は、本学の岡田正則・法学学術院教授をはじめとする「日本学術会議」会員6名の任命を拒否しました。このことは、これまで戦争法や共謀罪法、秘密保護法、沖縄・辺野古への米軍新基地建設などに反対してきた6名の学者を狙い撃ちにした言論弾圧そのものです。菅政権は、75年前のアジア・太平洋侵略戦争に学者が協力した反省にもとづき・軍事研究に反対してきた「日本学術会議」を国家的な統制のもとに服従させようとしているのです。私たち「とめよう！改憲 文連の会」は、「学問の自由」「言論・表現の自由」を正面から否定する今回の決定に抗議します。

(2)

菅首相は、いまだに任命拒否の「理由」を明らかにしないどころか、逆に「学術会議」のあり方を問題にしています。“公金が投入されているのだから政府に従うのは当然、”と言わんばかりの強権性をむき出しにしているのです。これは、政府に批判的な学問の存在自体を認めない・新たなファシズムというべきではないでしょうか。この菅首相にたいして、学界だけでなく、マスコミ界や文化・芸術の世界からも抗議の声が続出しています。私たちも、大学のサークルで文化・理論創造に携わるものとして、次々と声を上げている学者や文化人の方に連帯します。

(3)

いま、政府に批判的な学問にたいする統制が一举に強まっているのは、菅政権が年内にも「敵基地攻撃能力の保有」を決定したり、現行憲法9条の破棄を核心とする自民党新憲法原案を作成したりしようとしていることと決して無縁ではありません。菅政権は、米中両国の国家的対立がますます激しさを増すなかで、日本をアメリカとともに世界中で戦争をできる国へとつくりかえるために、学会のみならずマスコミや文化・芸術団体をも政府の戦争政策に忠実に従うものへとつくりかえようとしているのです。“新たな戦前、”というべき時代の到来を、私たちは断じて許すわけにはいきません。

私たちの文化・サークル活動にとって、現行憲法に保障された「平和主義」「言論・表現の自由」はなくてはならないものです。これを脅かす菅政権の危険な動きにたいして、私たちは心ある文化人・知識人の方と連帯して反対の声をあげるものです。

2020年10月22日

「とめよう！改憲 文連の会」

連絡先:090-2331-4456

この声明に賛同してくれる方は、こちらまでメッセージをお願いします→

